



サロンあべの

〈サロン・あべの〉6月の出会い

平成16年6月19日(土) 〈サロン・あべの〉6月の出会いは「タイ チェンマイ『希望の家』車いすでの訪問記」と題して、吉岡克彦さんにお話を伺いました。

吉岡さんは4年前にALS(筋萎縮性側索硬化症)という難病に罹り、現在全身介護を受けて

タイチェンマイ「希望の家」 車いすでの訪問記

いて、車い

す生活をされています。この日は奥様とALS協会の水町さん、「希望の家」の副代表の豊浦さん、患者会の川口さん方も一緒に出席されました。

タイへの思い

4年前、四肢麻痺になる難病

麻痺で親を失い、生きるすべの

ないタイ北部山岳民族の子どもたちの健全な成長発展を願って

1997年、医療人類学博士・大森絹子さん(故人)が開設した

「希望の家」を支える会のメンバーに出会った。これをきっかけに、タイへ行きたい思いが募った。31年前に行った記憶で

は、麻痺はあったがエイズはなかった。観光で行くのと今回は

根本的に変わってくる。1年ほどかけて、図書館で調べたり、いろいろと情報を集めた。ついに、今年1月、その時が来た。

タイへ出発

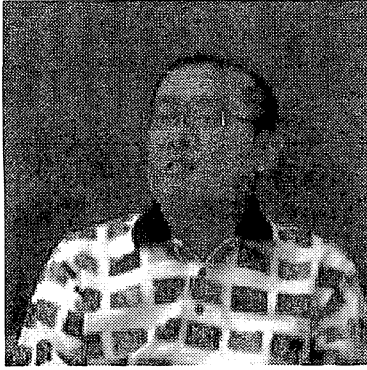
タイ チェンマイに行くには関西空港から7時間。そこから現地を目指して3時間。10時間の行程に、この私の体が耐えられるか心配したが皆に連れて来てもらったという感慨で疲れを

感じなかった。チエンマイは首都バンコクについて第2の都市で、北部の位置にあり、山岳民族が生活している。

空港には「希望の家」の子どもたちが出迎えに来てくれていた。「やっと来た。来れた」という思いであった。この日はホテルに直行して、ただひたすら体を休めた。

「希望の家」

「希望の家」のメンバーが翌



吉岡克彦さん

日、四駆車で迎えに来てくれた。前後左右に揺れながら、1本道を進んでいく、それはテレビの「ウルルン滞在記」の世界であった。「希望の家」に到着すると、子どもたちが寄ってきて、車いすを皆で押して、養鶏場や養豚場、養魚池などを案内してくれた。夕食後の交流会では、子どもたち

に将来の夢を聞いた。女の子は看護婦さんや医者さん、男の子は警察官や軍人など。また、ある子は、村に帰って活動をしたいと言い、どの子も皆志の夢を大きく膨らませている。なお、ここでの車いすの移動は、2階であろうが全部子どもたちが進んでしてくれた。

翌日は子どもたちが通っている学校を見学した。教室や図書館を通訳の人に案内していただいた。どの設備も質素であったが、その施設や備品からはいか

にも大切に使われている感触が伝わってきた。

別れの時が来た。子どもたちが見送ってくれた。言葉は分からなくても思いは通じた。私を父親のように思ったと言ってくれた。感動に胸が詰まった。「ありがとう。そして、さようなら」と告げた。

「希望の家」からの希望

「希望の家」の子どもたちの抱えている現状は重い。国籍が無いこと、仕事に就くこと、高等教育が必要などであるが、それをして

ても受け入れる社会があるかどうか。また、施設の資金面の支援など課題は山積している。が、3日と短い滞在期間であったが、多くの人と接する機会があった。今回出会った、明るく屈託のない子どもたちには、志と希望を

持って成長してほしいと願わざるを得ない。そして「希望の家」は私にとっても希望となった。

体力・気力が必須ではあるが、また行けることを希望になんとか乗り越えていきたい。発病して世界は狭くなったが、物事を深く素直に見えるようになった。ハートが強く大きくなったように思える。今はパソコンなど自分の残存能力で出来ることに取り組んでいきたい。

今回のチエンマイでの話を自分の経験として話せることに感謝している。

発病されてから障害の受け入れ、そして人生の目的を探し、明るさを全面にお話をされる姿に、自分の思いを行動に移す内なる情熱が伝わった（サロン・あべの）6月の出会いでした。

（参加者19名 山村貴司）

赤松 昭

「谷間」に

こだわり続けて

2

—医療と福祉の谷間—

「医療的ケア」という言葉を皆さんはご存知でしょうか？重症心身障害や遷延性意識障害など、とても重い障害があるために、たんの吸引や経管栄養、導尿など、本来なら病院で行うような処置を日常生活の場で行うことを指します。こうした行為は法律上、医師や看護師等の医療者のみが行えますが、家族に限って医師の指導を受ければ行えることになっていきます。しかしそのため、家族はとてつもなく重い負担を背負わされているのです。

私が訪問したあるお宅では、「この子が病院から家に帰ってきて以来、私はこの街から出たことがない」というお母さんがいました。交通事故に遭った息子さんが退院してから2年あまり。吸引と吸引の間の三十分あまりの時間で、家から往復できる距離までしか外出できないというのです。例えば家にヘルパーが来て、吸引をはじめとする医療的ケアは家族が行わなければならず、少しも家族の負担軽減にはなりません。ショートステイも「もしものことがあったら対応できるスタッフがいない」という理由で利用申請さえ断られるのです。「あれも使えない、これも使えない」というないづくしの中で、介護者に何かあればたちまちその生活は破綻してしまふ、そんな危うさの中で毎日を暮らすことを余儀なくされています。最近、私がある医療器材卸会社の営業マンから聞いた話では、ひと昔前までは病院に卸していたような医療資材（チューブや衛生材料）を、最近では一般家庭にまで卸すようになってきているそうです。それほど、医療を必要とする人が在宅で暮らすケースが増えているのです。にもかかわらず、こうした人を支える体制は非常に乏しいと言わざるを得ません。

こうした中、昨年の春に在宅で療養しているALS患者（筋萎縮性側索硬化症）に限って、家族以外のヘルパー等によるたんの吸引を認める方針を国は打ち出しました。しかし、他の病気の患者の方には認めず、新たな「谷間」を生み出したに過ぎませんでした。鳴り物入り導入された介護保険も支援費制度も、こうした家族の苦勞を軽減するに至っていません。「地域医療の推進」や「介護の社会化」など、言葉だけは華々しいですが、結局、「医療と福祉の谷間」のツケを当事者家族が払われている。それが「医療的ケア」をめぐるこの国の現実なのです。

ありがとうございます。

カンパ、お茶・お菓子・輪ゴム・リサイクル用大判封筒・バザー用品物の寄贈、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。

上野谷加代子、植松菊雄、岡賀寿子、

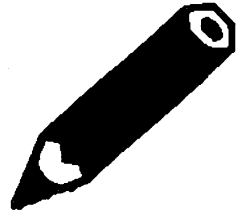
河本義和、阪口悦子、セルフ社、寺岡富子、

東百合子、藤井さゆり、紅田蘭、宮崎喜代子、

山本敏子、吉岡克彦、吉原和郎、

その他の方々。（敬称略）

6



邦子、
..ん歳の手習い。

(3) グループホームと地域支援ネットワーク

今知的障害者のグループホームが大阪でできてきています。ところが、大阪の公営住宅を利用してグループホームをつくらうとした時に、反対運動が起こっています。よそに行つて住んでもらうのならいいけれども、うちに住んでもらうことはないということなんです。アメリカでも知的障害者のグループホームをつくる時に、よく反対運動があります。反対の理由は、障害者がいるとイメージが落ちて地価が下がるということです。

反対理由がはっきりとしているので、アメリカではすぐに裁判が起こります。そして実際にそういう障害者のグループホームをつくっているところに行つて調査したら、地価は少しも下がっていないということが見事に証明され、反対していた住民は裁判に負けます。それは偏見であり、どんな人でも自由に生きていけるのです。

次に、痴呆性老人のグループホームが最近徐々にできてきています。痴呆性老人になりますと徘徊行動が出てきます。徘徊を地域で受容できるように地域社会が必要で、す。ちよつと難しいかもしれませんが、これは喜樂園という尼崎の特別養護老人ホームでは80%の40名が痴呆性老人です。その喜樂園の考え方の基本は老人の人権を徹底して守っていくことです。人権を守るということは、痴呆性老人の徘徊行動を管理して、徘徊しないように抑えつけることはしないわけです。外へ出ていく時に指導員が見つけたら、指導員がついて行きます。しかし、指導員の数にも限界があります。尼崎警察署から、「いつも歩かれると危ない」といつ



ありがとう。
20年

<サロン・あべの>は20年になります。

て通報され、保護されて、園長はいつも叱られます。園長は警察の皆さんに痴呆性老人になりやすい職業は公務員、特に警察公務員ですよといったとたんに態度が変わったという話です。これは自分たちも将来痴呆性老人になりはしないかと。それなら我々が通報して、保護していこうというように地域の支援ネットワークができたのです。中には時々尼崎から姫路まで行つたり、京都まで行つて迎えに行つたり大変な事もあ

るようですが、帰って来ておられるということですが、これはすばらしいことです。そういう地域の支援ネットワークのようなものができたらいという思いがあります。

脳卒中後遺症の人のグループホームも必要です。家族が面倒をみれば、今のホームヘルプサービスは24時間のヘルプをしてくれるサービスもあります。しかし、それは家族が面倒をみるということが前提になっていますから、家族が介護できなくなったら、療護施設へ行く選択肢しかありません。地域にグループホームがあれば、施設に行かなくても住み慣れた地域で生活していきます。

私の夫は要介護の重度障害当事者ということもあり、住み慣れた地域で今まで通りの生活を続けていくことを可能にするグループホームが、公的な施策になり支援をうけながら、増えていき、徐々に施設がなくなっていくような社会を心に描いています。そして、それを可能にするのは、地域住民の理解と協力であり、ボランティア活動を基にした地域支援ネットワークであると考えていました。

(定藤邦子)

重度障害者の私は、妻の手を借りなければほとんど何もできません。特に朝は私をベッドから起こすのが、妻にとっては一苦勞で大変です。

私のベッドの横にリフト、通称「つるべ」といって人間を上げたり下げたりする機械がついています。妻は先ず私の両腕と両足にそれぞれベルトを巻き、それを機械の本体から吊してあるハンガー型の器具にかけるのです。

次に妻はリモコンの「あげる」と記したボタンを押すと、私の身体がゆっくり上がって行きます。30センチぐらい上がると、私の身体をベッドから車いすの上に移動させます。そし

て今度はリモコンの「さげる」のボタンを押すと、ゆっくりと降りて行き、車いすにきちんと乗ることができます。その間わずか5～6分ですが、何かと気忙しい朝のことですのでずいぶん長く感じるのです。

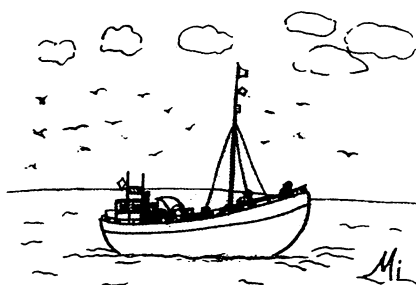
そのあと妻は洗面所まで車いすを押して行ってくれます。その時、私は「毎日、悪いなあ」と言いますと、妻が「そんなこと当たり前やんか」と少しもいやな顔を見せずに台所の

方へ飛んで行きます。この言葉を聞いて、私は何故かほっとし、朝日が心の中までさし込んでくるようなとても明るい気分になさせてくれます。

晴れのち晴れ 70

朝

稲垣 恵雄



頭のなかにあること

いま午前二時をすぎている。どうしようもない仕事のために帰宅が深夜零時を過ぎている。明日もまた仕事がある。早く寝ないといけないと焦っている。しかし、サロンの原稿を書かなければ寝られない。なぜなら締め切りはもう過ぎているのだから！

いったい何度、こんなことを繰り返しているのだろう。もつと早くに手をつければ良かったと毎度のように悔やむ。しかし、もうこんな思いを五年ぐらい続けているような気がする。

サロンの原稿を書かなければと机に向かうとき、いつも真っ先に出てくるテーマは二つしかない。ひとつは「時間が無い」。もう一つは「片付かない」である。これ以外には考えられない。こんなことしか考えていないのかと情けない気もする。

五年以上前の第一のテーマは「片付かない」だったと思う。実際、そんなテーマで何

度も書かせてもらったことがある。部屋のなかに何重にも積もった資料があり、その上を歩いていたりした。

幸い、いまは、そこまで散らかってはいない。片付いたのは子どものおかげだ。資料を積みっぱなしにしていると、子どもが、その上を歩いたり走ったりして、必ず破いてしまふのである。だから片付けるようになった。「片付かない」という悩みはいまでも深刻だが、床の上はすっかりきれいになったし、子どもが怪我をすることを恐れて、何かを高く積んだままにしておくこともなくなった。

その代わりに「時間が無い」という悩みは、いつそう深刻になった。以前は土曜日と日曜日が私の仕事の「書き入れ時」であった。平日は通勤や職場での通常の業務のため、ほとんどその他の仕事（原稿を書いたり、報告書をまとめたりという仕事）ができ

ない。だから私にとって土、日は以前から休日などではなく、朝から晩まで働く日になっていった。

しかし、いまでは土、日は子どもたちと遊ぶ時間になっている。子どもの隙をみて仕事をしようとしても、すぐに机のところま



お知らせ

<サロン・あべの>8月の出会い

内容：バザーの店「さろん亭」を開店
 サロングッズや、お買い得の品
 をそろえて、みなさまにお会い
 できるのを楽しみにお待ちしております。

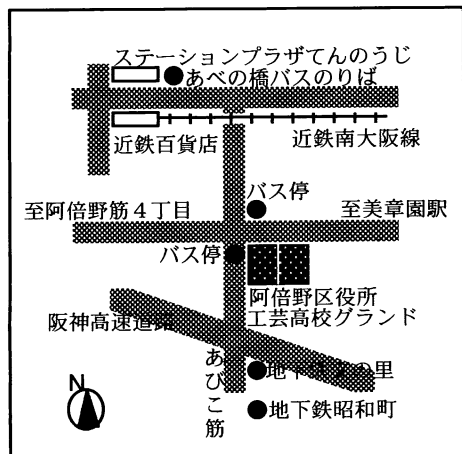
日時：8月8日(日)午後3時～6時

場所：あべのカーニバル
 なんでも市会場
 大阪市阿倍野区文の里1-1-40
 阿倍野区役所裏、工芸高校グ
 ランド

交通：地下鉄御堂筋線
 「昭和町」駅北へ10分
 地下鉄谷町線
 「文の里」駅北へ5分
 市バス・赤バス
 「阿倍野区役所」停留所前

*当日の販売のお手伝いをしてくださる
 方、品物をご提供いただける方、ご連絡
 お願いします。

問合せ先：☎06-6691-1028 (富田慶子)



で走ってきて「お父さん、遊んでください」と長男が言ってくる（「お父さん、遊ぼうよ」などと、友達口調でモノを言うことを私は決して子どもに許していない）。よほど切羽詰った仕事でも入っていないかぎり、私は「いいよ」と応じている。実際、子どもが父親に対して「遊んでください」と言ってくれるのは、ごく限られた年数だけだろうと思っているし、自分自身でもけっこう子どもと遊んでいて楽しいのである。

ただ、遊んでいて時間をつかったあとは、深夜にまで仕事をすることになる。眠い、眠いと思いつつながらの仕事は恐ろしく能率が悪い。ふと気づくと、意識が朦朧となっていて、ノートに分けのわからない文字や文章を書いていることがあり、なんだか意味が悪い。そして、そのうち朝になってしまうのである。それでも私は「時間が無い」と嘆くことは心底、嫌いだ。「時間が無い」と愚痴をいう人は、（特別な事情がある人は別にして）た

いてい意思の力が弱く、自分で自分の生活を律することができないのだろうと私には思えるからである。ああ、それに私の文を掲載してくださる（サロン・あべの）の編集部のかたに、それではいかに失礼ではないか。とはいえ、今回だけは許していただきました。もう午前三時をすぎ、ああ、こんなことしか書けませんでした。みなさん、すみませ

(知)

美智子のこんな話

岸田美智子

6/9 全国大会行動に

総勢28人で参加して来ました！

2003年4月から導入された支援費制度は、これまでの措置制度から障害者の選択権を保障した利用契約制度へと変わりました。

これをきっかけにこれまで利用出来なかつた知的障害者や、障害児にもサービスが利用出来るようになりました。この結果サービス利用者が増大し、支援費が足りないと言う状況が1年足らずで出て来てしまいました。

この財源不足を解決するために介護保険への統合が進められています。

しかし、現状の介護保険に統合されてしまうと、どんな問題が出てくるのか、まず社

会参加していくための外出支援のサービスは考えられていません。そして、介助者を使つての自立生活という考え方はなく、なるべく介助

サービスを利用しない事が自立生活だという事になり、私達重度障害者が20年以上かけて地域で培ってきた自立生活運動が根底から崩されてしまうのです。

さらに、介護保険では要支援、要介護1、5などと分類され、月額最高で約35万円のサービスが上限となります。上限を超えたサービス利用分は、全て全額自己負担となります。おまけに、介護保険には保険料や受けたサービスの一割負担があるのです。

このような問題のある介護保険に統合されると、今地域で介護を受けながら暮らしている自立障害者は、具体的には1日3時間ぐらいいまでしか介助が受けられなくなり、それ以上必要な障害者は施設へと戻って行くしかなくなってしまうのです。

このような厚生労働省の方針に対して、私達は危機感を覚え、この全国抗議行動に参加してきました。当日は全国の当事者団体から1000人位の参加者があり、日比谷公園に集まり、集会とデモ行進を行いました。

また、一部のメンバーは厚生労働省に要望書を提出したり、議員廻りを同時に行いました。これだけ多くの当事者がデモ行進するのは画期的な事だと思うのですが、あまりマスコミに取り上げられなかったのが残念です。

最近、厚生労働省は「三位一体」改革などと打ち出し、地方への補助金をカットする動きがあります。当然、地方の福祉予算も大幅に削減される恐れがあります。

とても重要なこの時期に、一人でも多くの皆さんが声を上げていく事が、今、大切なのではないのでしょうか。

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴一五〇円

Dear Kieko -
Hello How are you?
I hope you are well.
I am sorry I have not written, my husband has been ill.
Please put the enclosed paper in your newsletter. Also put in Japanese! Very Important!
Thank you for being Ma's and My Friend.
Thank you for the pretty Hankerchief.
God Bless,
Patti

アメリカのパティ トラッキーさんから

How to survive a heart attack alone

It's 6:15 p.m. and your driving home (alone of course). After a hard day, you are tired, upset, and frustrated. Suddenly you start experiencing severe pain in your chest that starts to radiate out into your arm and up into your jaw. You are only about five miles from the hospital nearest your home; unfortunately you don't know if you'll be able to make it that far. What can you do?

Perform CPR on yourself. Most people are not instructed on how to do this to themselves, since many people are alone when they suffer a heart attack, without help, the person whose heart stops beating properly and who begins to feel faint, has only about 10 seconds left before losing consciousness.

Victims can, however, help themselves by coughing repeatedly and very vigorously. A deep breath should be taken before each cough, and the cough must be deep and prolonged, as when producing sputum from the deep inside of the chest, and a cough must be repeated about every 2 seconds with out let up until help arrives, or until the heart is felt to be beating normally again. Deep breaths get oxygen into the lungs and coughing movements squeeze the heart and keep the blood circulating. The squeezing pressure on the heart also helps it regain normal rhythm. In this way, the heart attack victims can get to a hospital.

Thought You Might Be Able to Post This.
Patti Truckey RN

2004. 6. 12

親愛なる慶子さま

こんにちは。ごきげんいかがですか？ お元気にお過ごしのことと思います。お便りできなくてごめんなさい。主人のゲアがずっと病気をしています。

同封の書類を、「お便り」に載せてください。日本語に翻訳してください。とても重要です。

マーさんと私の友達でいてくれてありがとう。

神の祝福がありますように。 パティ

1人で心臓発作に耐える方法

午後6:15。あなたは、車で帰宅途中（もちろん1人で）大変な1日で、疲れていららしている。突然胸に激しい痛みを覚え、腕や顎にまで痛みが広がる。最寄の病院までほんの5マイルくらいの所まで来ている。だが、そこまで辿り着けるかどうか分からない。

あなたに何が出来ますか？ 自分で心肺蘇

生法をやる。自分自身にこれが出来るように訓練している人はほとんどいない。

心臓発作に襲われるのは、たいてい、助けのいない、1人ぼっちの状態なので、心臓の鼓動がおかしくなり、意識の乱れた人が、完全に意識を失うのに10秒とかからない。だが、何度も何度も激しく咳をすることで、自分を救う事が出来る。毎回咳をする前に深呼吸をして、胸の奥のほうから痰を出そうとする時のように、深く、長い咳をする。そして、助けが来るか、心臓の鼓動が正常にもどるまで、2秒くらいの間隔で、止めずに繰り返す。深呼吸をすることで肺に酸素を取り込み、咳の動きが心臓を収縮させ、血液の循環を助ける。心臓に収縮の圧力がかかることは、同時に正常な鼓動のリズムの回復の助けにもなる。こうして、心臓発作に見舞われた人も、病院まで辿り着ける。

これを、提示していただけたらと思います。

パティ トラッキー（正看護婦）

訳=林 正弘

「サロン・あべの」紙の音訳テープを拝聴
させていただきました。

とても聞きやすいテンポと音声で録音さ
れており、とても感謝しております。

今回の「サロン・あ
べの」紙の中で特に赤松
昭さんがお書きになった
「谷間にこだわり続けて」

というページにはとても共感するものがあり
ました。学生無年金障害者を救う会などがあ
るのなら、ぜひ加入したいものです。もし連
絡がとれるものなら、赤松さんにこの手紙を
渡していただけないでしょうか。

私は12年間盲学校で拡大文字を使用して
授業を受け、4種類の国家試験も拡大文字
で受験してきました。盲学校の生徒は在籍
中・卒業生も含め、点字やテープより拡大文
字を使用しているものが圧倒的多数です。そ
れゆえ各種国家試験においても拡大文字受
験を認めているのです。ところが、この拡大
文字使用者が視覚障害者会での谷間にはま
っていることをご存じでしょうか。図書館でも
市販の本を点字や音声読み上げテープにするサ
ービスは充実していても、拡大するサービス
はできないのです。これは私のことですが、

今週、福祉住環境コーディネーターの試験を
拡大文字で受験します。ところがその問題集
やテキストは点字またはテープでしかいた
けないのです。市販のものを購入し、コンピ
ニへ持って行き、拡大コ
ピーをしようとしたとこ
ろ、コピー機のタッチパ
ネルでは私の頭が暗がり
となり、一人ではできず、結局店員の手を煩
わし必要な枚数をコピーすることができま
せんでした。これまでの学習スタイルが文字
であった私に読み上げ問題集では、使いこな
せません。問題ばかりが先読みされ、B面に
回答を録音されており、あげくに「テキ
ストP何ページ参照」と読まれても…。

問題集や市販の本だけではないのです。
視覚障害者のための広報や市政だよりで
さえ、点字と音声テープはあっても拡大
文字版はないのです。

赤松さん、どうかこの谷間についても
一緒に考えてはいただけませんか。

平成16年6月30日

阿倍野区在住・金光弓子





SALOON

随組ニュース

■「サロン淀川」8月の出会い

日 時：8月15日(日)午後1時30分～4時
 内 容：10年を振り返り、これからのサロンの
 取り組み方
 ゲスト：鈴木昭二氏(ウイズ東淀川代表)
 窪田新一氏(サロン淀川代表)
 会 費：なし
 場 所：淀川区民センター「やすらぎ」
 大阪市淀川区三国本町2-14-3
 問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) ☎06-6394-2900
 E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」8月の出会い

日 時：8月8日(日)1時30分～4時
 内 容：暑中見舞いを作ろう!
 場 所：西区在宅サービスセンター6階
 ボランティア・ビューロー室
 大阪市西区新町4-5-14(西区役所隣)
 地下鉄=西長堀駅4-A号出口からすぐ
 市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
 ☎06-6539-8075
 会 費：なし
 問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・ひらの」8月の出会い

日 時：8月28日(土)時間未定
 内 容：未定
 パネラー：未定
 会 費：未定
 場 所：未定
 問い合わせ先：にこにこセンター
 ☎06-6795-2525
 安達 ☎090-7755-7899

■「サロン・にしよど」8月の出会い

日 時：8月28日(土)午後1時30分～3時30分
 内 容：たまごがヒヨコに早変わり!?
 ～「飾りエッグ」を作ってみよう～
 玉子の殻があつという間に可愛いインテ
 リアになります。

講 師：古井宏子氏と「姫島手作り」のみなさん
 会 費：なし、ただし材料費として300円
 ご注意ください
 場 所：西淀川区在宅サービスセンター「ふくふく」
 大阪市西淀川区千船2-7-7
 問い合わせ先：西淀川区在宅サービスセンター
 ☎06-6494-0635
 中本 ☎090-9864-9678

■サロン「アイ」8月の出会い

日 時：8月14日(土)午後1時30分～4時
 内 容：私の地球1周、船の旅
 パネラー：比嘉 昌美氏
 会 費：なし
 場 所：「おかちやま」2階ボランティアルーム
 大阪市生野区勝山北3-13-20
 問い合わせ先：生野区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) ☎06-6712-3101
 ○お知らせ：サロン「アイ」だよりの音訳テープが
 出来ます。ご希望の方は、西浦まで。
 ☎06-6757-8574

■「てくてくすみよし」8月の出会い

日 時：8月8日(日)午前11時～
 内 容：盲導犬の訓練士てなに?
 講 師：亀山ちな氏
 場 所：あびさんサロン
 大阪市住吉区我孫子3-10-16
 会 費：500円
 申し込み・問い合わせ先：
 山本篤江 ☎06-6692-8411
 携帯090-5168-5977

■「サロン・つるみ」8月の出会い

日 時：8月1日(日)午後1時30分～4時
 内 容：ピアカウンセラーになるまでの道のり
 と、なってから学んだこと
 講 師：前川泰輝氏(NPO法人大阪障害者セン
 ター大阪障害者支援センター「つるみ」
 ピアカウンセラー)
 会 費：なし
 場 所：鶴見会館2階
 大阪市鶴見区横堤5-5-51
 問い合わせ先：鶴見区社協(ボランティア・ビュー
 ロー) 田村 ☎06-6913-7070

■「サロンいたみ」8月の出会いはお休みです

創業昭和67年

さ ろ ん

萬千客 来客

バザーの老舗「さろん亭」が今年も8月8日に開店いたします。みなさん、にぎにぎしくご来店ください。

さろん亭

あべのカーニバル
なんでも市通り

連絡先 富田慶子 545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 TEL/FAX 06-6691-1028

「さろん亭」の売り上げは<サロン・あべの>の活動資金になります。

寄りみち



8月8日3時から、あべのカーニバルのなんでも市通りに「さろん亭」が店開きをします。何分にも一番暑い盛りの中で、はなはだ申し訳ありませんが、再三お願いしておりますように、とにかく買いに来てください。タオル1本、石鹸1個でもお買い上げください。昨今の社会経済状況を反映して、<サロン・あべの>の運営に苦慮しております。活動資金の調達にぜひご協力ください。 (石)

<サロン・あべの>VOL. 217 発行：平成16(2004)年7月17日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
本紙はホームページでもお読みいただけます。書庫は、<http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/>